オーディオ資料室収載

2022年の活動を振り返って

毎年の年末には、研究室日誌のページで、その年の音楽とオーディオの活動を回顧していますが、今回からオーディオ資料室の研究室メモに掲載することにします。

2013年にスタートした本HPも9周年を迎えることになりました。

本年も昨年に引き続き、音楽活動やオーディオ活動が新型コロナ感染の影響を受けました。

コンサートは、近隣のホールなど最小限に留め、配信頼りになりました。本年は、ベルリンフィルディジタルコンサートホールの他、東京春の音楽祭、大阪クラシック 22、ディジタルサントリーホールなどが中心で、新しい配信手法の、KORGのLive Extremeでは、菊池洋子のライブ配信もありました。

ネットに接続したPANASONICのレコーダーのYouTubeやfidataによるSpotify Connectも昨年同様ですが、12月からドイツグラモフォンの配信チャンネル「STAGE+」が加わりました。音質もよく、豊富な良質のコンテンツに期待が持てます。

6月のOTOTENと7月のオーディオルネッサンスはLive Extremeでも配信されました。11月の大阪ハイエンドオーディオショウとオーディオセッションin Osakaの開催では、短時間の参加でしたが、昨今の動向を知ることができました。

オーディオ関係では、引き続きZANDENのフォノイコライザーModel120の活用が進み、昨年のベートーヴェン全集に続いて、友人から譲り受けた大量のモーツアルト盤を楽しんでいます。

アナログ再生関係では、オーディオ仲間から譲り受けたTorlensTD124のレストアが完了し、アナログ再生ラインに加わり、アームのRMG212と手持ちのSPU Synergyとのコンビで活躍しています。78回転も可能ですので、小川理子のジャズピアノの78回転LPを手に入れ、これまで未体験のパーフォーマンスを体験しました。

アクセサリー関係では、昨年のヴォリュームアキュライザーに引き続き、インフラノイズのターンテーブルアキュライザーとダンパーフレークを導入し、アナログライフが一段と向上しました。

さらに、本年後半は、光城精工の仮想アース Crystal E と Crystal Ep を導入し、フォノイコライザーからスピーカーまで幅広い機器に応用してきました。また、オーディオ仲間からの情報も得て、金属タワシ、備長炭、グリーンカーボランダム、電解コンデンサーなどの素材を材料として仮想アースの自作も行ってきました。今月になって旭化成の Pulshut を使用したオヤイデの電磁波吸収テープ NRF-005T を入手して仮想アースに応用する実験を続けています。

来年度の目標は、これまで同様、音楽活動やオーディオ活動を新型コロナ感染下でどう凌いでいくかということです。読者各位におかれましても、変異が繰り返される新型コロナの感染防止に関して重々注意され、新しい年を迎えられることを祈念しております。

以上